

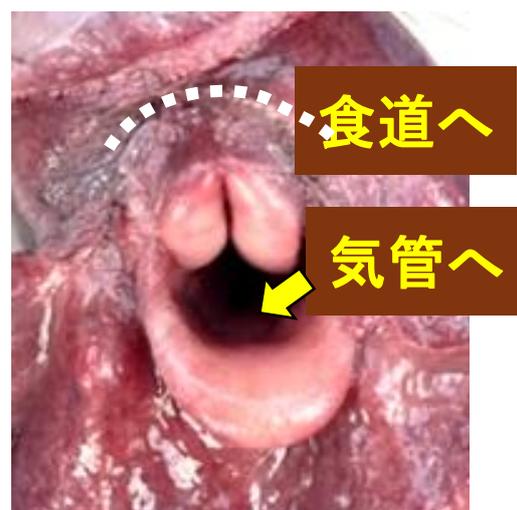
喉頭の解剖と嚥下(えんげ)の仕組み

喉頭(こうとう)は、いわゆる「のどぼとけ」といわれる器官で、気管と食道を分けています。鼻や口から取り込まれた空気は気管へ、飲食物は食道へと振り分けられます(反射)。

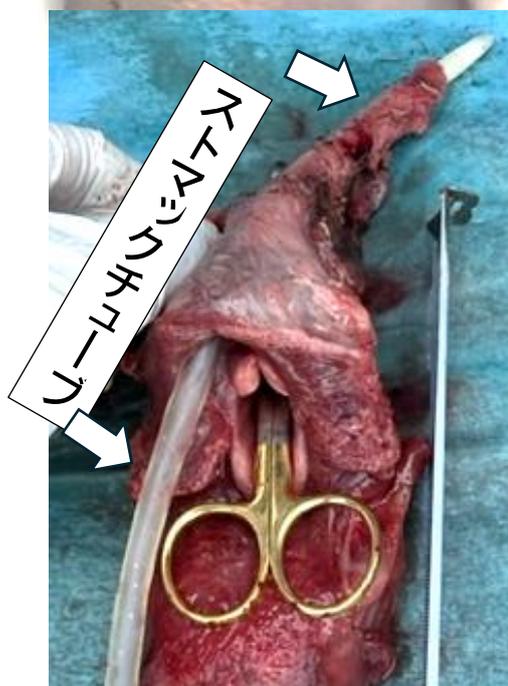


舌の付け根にはこのような構造物があります。

呼吸し、空気を気管から肺に送り込むとき、このように喉頭蓋(こうとうがい)が開いています。2つの披裂軟骨(ひれつなんこつ)の向こうに声帯・気管・肺があります。そして、ミルクなど胃に何かを入れるときは、喉頭蓋が披裂軟骨にかぶさってふさがります。まさに「蓋(ふた)」になるわけです。この一連の動きは「反射」で無理をしなければ自然に起こります。



舌



左の写真では、ハサミが気管に入っており、スタマックチューブが食道に入っています。このハサミのところにチューブを入れてはいけません。「誤嚥性肺炎」になってしまいます。

スタマックチューブを入れる際に気を付けることは、

★嚥下(えんげ: 飲み込むこと)し易くさせましょう。首を延ばしすぎては苦しくなり、嚥下しづらくなります。

★チューブを無理に押し込まない！ ねじ込まない！

★食道に入ったことを確かめる(首の左側にチューブの断端を触るはず)ことを励行しましょう！！

現在、「気管に入らないスタマックチューブ」開発中です～